

## これまで(2011 年度)の活動状況

### (1)自給食料を確保するための活動-食料の安全保障支援-

#### ●自給食料を確保することが出来ました！

2011 年度の活動においては、各グループ が昨年度の収穫物から種子を確保して、栽培を開始しましたが、2012 年に入り、治安が悪化し、4 カ村のグループは一時的に避難を繰り返さざるを得ない状況になりました。以前から活発に活動していた武装勢力(FDLR)に加えて、それに対抗する地元の武装グループ(ライア・ムトンボキ)が子どもを徴兵し、武力闘争を開始したことで、住民への襲撃なども頻繁に行われるような状況に陥りました。(住民への襲撃を行っているのは主に FDLR )。

こうした状況を鑑みて、今年度は、武装グループの影響を受けた村の人々が比較的治安の安定している他のグループの村に避難して生活できるように調整しながら活動を継続しています。

対象地域 12 カ村のうち 4 ヶ村(チヨロベラ村、ミヒンガ村、マルンデウ村、チギリ村)では、避難を余儀なくされましたが、避難先の村のグループ(ルシェニ村、ムレ村、ブシャイ村、テウラマンバ村)に対しての支援を強化することで、自給食料を確保ができました。

チギリ村も一時的に避難を強いられました。帰還後、ため池の整備と共に農作物の栽培も順調に進めています。ため池は既に 4 つが完成しており、栽培したカッサバも自給用以上の収穫をすることができました。その後、他のグループからの避難民も受け入れて支援すると共に、余剰作物を販売し現金収入を得ることもできました。その収益でキャベツの種子を購入し、現在、キャベツ栽培も行っています。



チギリ村のグループが栽培しているキャベツ畑。



チギリ村に整備した養殖用のため池

## (2)収入源を確保するための活動-収入向上支援-

### ●洋裁店を開きました

同 地域では、都市部に出稼ぎに行く以外に現金収入を得る方法は限られており、低賃金で鉱物資源の採掘や日雇い労働に従事する以外は、ほとんど雇用の機会もありません。また、こうした収入源は不安定であるだけでなく、不公平な条件で、外部のビジネスマンや裕福層（または武装勢力）に搾取されることにもつながっています。

同活動では、受益者が安定した収入源を確保するために、衣服や家具など地元住民にとってもニーズの高い製品やフェアトレード商品を生産する為の技術訓練、その後のフォローアップ（実際の収入向上のためのサポート）を行っています。

今 年度、これまで、職業訓練を受けてきた 性的暴力を受けた女性に対して、習得した技術を使って収入源を確保するため、洋裁店の運営支援を 5ヶ所で行いました。2011 年に建設を開始し、2012 年 1 月には 5 つの洋裁店が完成し、各洋裁店では近隣に住む 5 名～10名が一つのグループを作り共同で洋裁店を運営しています。持続的に、収入源が確保できるように、洋裁の資機材の供与と共にそれぞれのグループに店 舗管理、小規模ビジネスの運営方法についての助言を行いました。



また、ムレ村 はタンタル鉱石の産地でもあり、多くが低賃金で採掘作業 を行っていました。ここに設置した洋裁店でも、一日数ドル程度の収入を得ることができるようになっています。

(※タンタル鉱石は紛争鉱物として紛争の要 因となり、海外の需要に影響を受けながらも外部では高値で取引されているが、現地で採掘作業に従事する人々の収入は、一日 1 ドルにも満たない)。



カロンゲ地区のタンタル鉱石の発掘現場

また、溶接の訓練を完了した元子ども兵たちが 収入を得られるように、当会の訓練施設の一部を彼らのビジネスの場として開放しています。これまで、近隣住民からの依頼でドアや窓枠、炭ストーブなどの製造、販売、またバイクの修理など、地域住民にとってもニーズの高いサービスや製品を提供することができています。まだ、安定した収入を得ることはできていませんが、着実に現金収入の機会にもなっていますし、地域住民の生活向上にも役立っています。特に鉄製のドアや窓枠などの製品、またそれらの修理は武装勢力の襲撃からの身を守るために住民にとっても不可欠なモノであり、サービスとなっています。来年度は、この地域初となる溶接所の建設を予定しています。



炭ストーブを制作した受益者(中央)

以上の訓練後のフォローアップ支援に加えて、職業技術の習得を希望している女性6名に対して、6ヶ月間の洋裁の職業訓練を実施しました。全員が子ども服や地元住民が身につける一般的な衣服の製作、修理に必要な技術を身につけることができました。

### (3)心理社会的な安定を促す活動-心理社会支援-

#### ●個別カウンセリングが実施しています！

子ども時代に戦闘に加担させられた元子ども兵や、性的暴力を受けた女性たちは、心に傷を負っているだけでなく、コミュニティから偏見を受けたり、疎外されたりするケースもあります。昨年度に引き続き、グローブハウスⅢに常駐するスタッフが、希望者に対して個別カウンセリングを行い、受益者の精神的な安定を図りました。

また、対象地域の村々を訪問した際に、コミュニティ内で差別や偏見など深刻な問題が確認された場合は、村長などコミュニティリーダーと協力してその解決にあたってきました。治安の問題もあり今年度は地理的に比較的訪問が容易であったルシェニ村の受益者たちへのカウンセリング回数が多くなりましたが、他の村々でも農業支援や洋裁店の開業支援に合わせて、各村訪問時にカウンセリングの機会を設けました。

昨年に比べれば、過去のトラウマなどに起因すると思われる相談内容は減ってきている一方、治安悪化や避難民の受け入れ等に伴う経済的な負担が、新たな悩みとして多く聞かれました。今後も、経済的、社会的な安定と共に精神的に安定して受益者らが自立に向けて歩んでいけるよう取り組みを続けていきたいと思ひます。

